

地域の賑わいから得た収益を活用した道路 景観の維持管理のしくみづくり社会実験

高山市 基盤整備部 維持課

1. 地域の課題と社会実験の目的と結果

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている高山市の古い町並は、国道158号を挟んで上町地区と下町地区に分断されているが上町地区のみに観光客が集中し、下町地区への回遊がほとんどみられていない。そのため、下町地区の地域の活力が低下し、空き家・空き店舗の増加、路上駐車による景観の悪化を招き、さらに無電柱化によって通過車両の速度が増加したことで、地域の安全性が損なわれている。一方で、上町地区は観光客が集中するため、古い町並周辺の駐車場に車両が集中し、駐車待ちによる交通混雑が発生する。また、観光客と車両の輻輳により、歩行者の安全確保が課題となっている。

社会実験では、このような地域の課題に対し、地域が設立した実行委員会により、下町地区を活性化させるため案内誘導や交通規制を行い、賑わい空間を創出するためのオープンカフェや空き家を活用したショップ等を沿道に配置した。また、社会実験の収益は、道路景観や道路維持管理に充て、継続的に景観の改善等が可能な仕組みを試み、地域の活力を向上させることに活用した。結果として、下町地区への回遊を向上させるとともに上町地区に集中している交通の分散が図られ、観光客（歩行者）の安全の向上に寄与した。



図-1 高山市の古い町並と周辺の駐車場の位置図

2. 社会実験の取組み内容

社会実験は、以下の期間について、下表のような取組みを実施した。

期間：2016年10月22日（土）～11月3日（木）のうち土日、祝日の5日間

（10月22日、23日、29日、30日、11月3日）

表－1 社会実験で実施した取組み

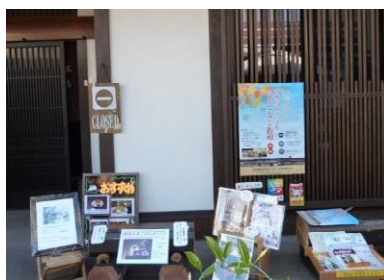
項目	取組内容	効果検証項目
(1) 道路景観維持の仕組みづくり	1) 道路空間を活用したオープンカフェ等の試行	<ul style="list-style-type: none"> 下町地区の歩行者流入量 オープンカフェ等の収益
	2) 町並・空家・空店舗を活用した賑わいの創出	
	3) 道路空間を活用した町並・道路景観形成活動の試行	
	4) 車両交通規制の試行	
	5) 道路清掃	
(2) 下町地区から上町地区を巡る案内誘導	1) 高山ICから不動橋駐車場への案内誘導	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の利用台数、収入、平均駐車時間 不動橋駐車場利用者の下町地区への訪問割合、回遊経路 上町地区と下町地区の流動割合 不動橋駐車場利用者の滞在時間
	2) 不動橋駐車場から下町地区への誘導と上町地区への回遊	
(3) 外縁部駐車場や二次交通の利用促進による交通分散	1) 外縁部駐車場の利用特典の付与	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の300円分駐車券の有無による利用意向 駐車場の時間帯別稼働率
	2) 二次交通の試行	

(1) 道路景観維持の仕組みづくり

下町地区の道路に関して車両通行規制を実施し、規制区間にオープンカフェ等の配置や、空き家・空き店舗を活用した賑わいの創出に取り組んだ。また、道路景観の形成としてフラワーポットを設置し、道路清掃を実施することで景観の向上を図った。



オープンカフェ



「町並市」の開催



下二之町の町家の交流施設



通行規制時の様子



交通規制箇所を安心して歩く観光客



フラワーポットの設置

図－2 道路景観維持の仕組みづくりの取組み状況

(2) 下町地区から上町地区を巡る案内誘導

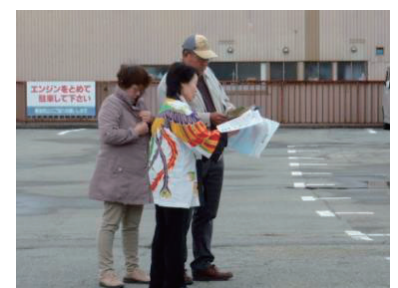
下町地区に近い不動橋駐車場の利用を促進するため、高山ICから駐車場までの経路上に誘導サインや実験告知看板を設置した。さらに、不動橋駐車場から下町地区へ誘導するための案内看板の設置や誘導サインを設置し、不動橋駐車場ではガイドによる案内を実施して、下町地区への移動を促した。一方で、不動橋駐車場や上町地区と下町地区の中間地点に観光案内所を設置し、社会実験の取組みを説明し、上町地区から下町地区への回遊を促進した。



不動橋駐車場に観光案内所を設置



不動橋駐車場から誘導サインで下町地区へ誘導



不動橋駐車場でガイドによる案内

図-3 下町地区から上町地区を巡る案内誘導の取組み状況

(3) 外縁部駐車場や二次交通の利用促進による交通分散

市街地の外縁部駐車場の利用を促進するために、商店街が管理する駐車場（不動橋駐車場）の利用者に300円分の駐車券や、「まちなみバス」の1乗車分の無料乗車券を配布し、古い町並に流入する車両を減少させ、混雑の緩和と安全性の向上を図った。

国土交通省 地域の賑わいから得た収益を活用した道路景観の継続的な維持管理のしくみづくり社会実験

まちなみバス


無料乗車券

期限:平成28年10月22日(土)1日1乗車

発行者:道路景観維持管理のしくみづくり社会実験協議会

お問合せ先:TEL:0577-32-0380(高山商工会議所内)

No.001



※まちなみバスを降りられる際に、バスの運転手にお渡しください。
 ※お1名様、指定日1日1乗車に限りご使用できます。
 ※この無料券は換金できません。
 ※この無料券の紛失、盗難等について発行者はその責を負いません。

「まちなみバス無料」乗車券

図-4 配布した「まちなみバス」の無料乗車券

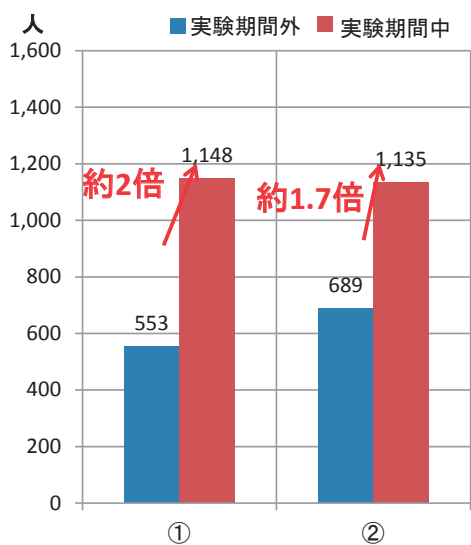
3. 社会実験の実施結果

古い町並で実施した社会実験に関して、各実施項目による社会実験の結果を整理する。効果は、社会実験を実施していない期間（実験期間外）と社会実験中（実験期間中）の期間を比較することにより検証した。以降に各項目における社会実験の効果検証結果を整理する。

(1) 道路景観維持の仕組みづくり

下町地区で交通規制を行い、オープンカフェ等の配置や空き家・空き店舗の活用などを実施したことで、下町地区の歩行者が実験期間外と比較して約2倍に増加し、賑わいが創出された。

- ①下二之町 江名子川側入口
- ②下二之町 安川通側入口



実験期間外(10/1、10/2、10/15)
 実験期間中(10/22、10/30、11/3)



図-5 下町地区の歩行者の流入量変化

オープンカフェ等で得られた収益と道路維持活動の支出の収支を整理したところ、社会実験の収入は道路清掃75時間分と除雪作業における運搬排雪用のトラック2日分に相当することが把握された。今後、このような活動を行うために通行規制の費用や備品購入などの経費を捻出する必要はあるが収益活動を基本として、イベント補助金や各団体協賛金を活用することで継続実施が可能と想定される。

表-2 収益活動の道路維持活動への還元試算

収支	内 容	具体的内容	収支金額
収入活動	オープンカフェ等による収益	オープンカフェ	21,000 円
		店頭販売	36,000 円
		計	57,000 円
支出想定	道路清掃	道路清掃 75 時間に相当	57,000 円
	除雪作業	運搬排雪用のトラック 2 日分に相当	
		計	57,000 円

(2) 下町地区から上町地区を巡る案内誘導

高山 IC から不動橋駐車場への誘導、下町地区と上町地区の回遊を促進することで、実験期間中の不動橋駐車場の1日あたり利用台数は2.5倍の119台になり、1日あたり収入は3.2倍の5.4万円となった。また、平均駐車時間も1.3倍の3時間に増加しており、不動橋駐車場への誘導が促進された。一方で、懸念となっていた他の駐車場への影響は少なく、神明駐車場は実験期間外と実験期間中でほぼ変わらない結果となった。

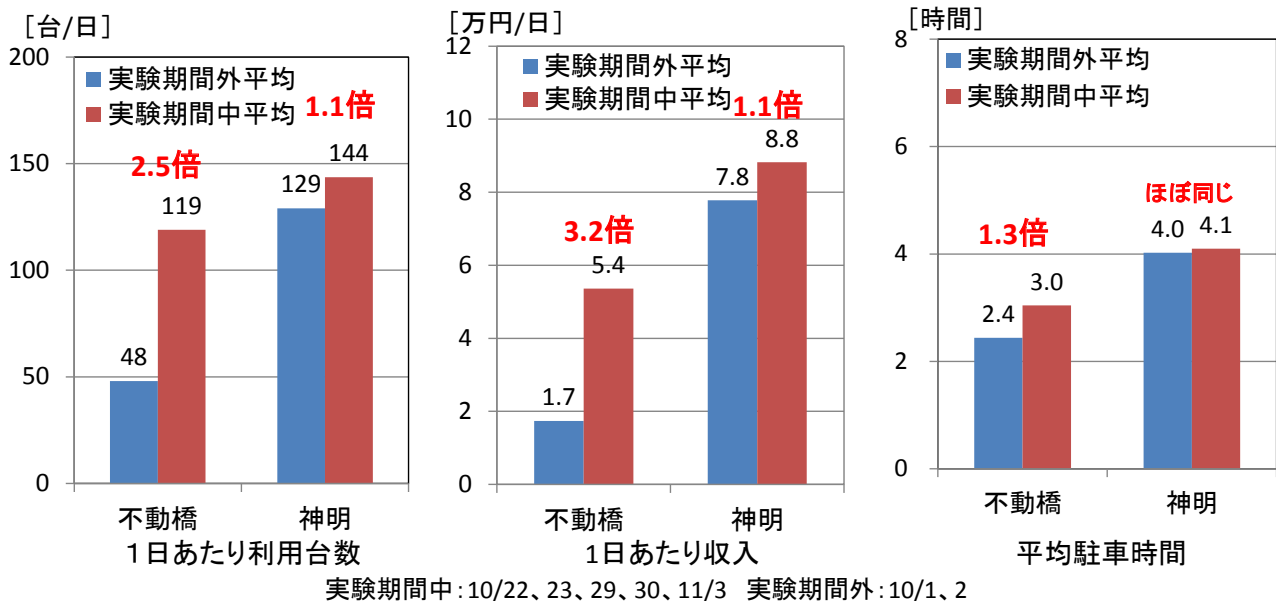


図-6 不動橋駐車場の利用状況の変化

不動橋駐車場から下町地区への誘導などの観光客の流動や回遊に関する効果検証では、Wi-Fi パケットセンサーを用いることとした。

Wi-Fi パケットセンサーとは、電子機器から発信された Wi-Fi 管理パケットを受信し、パケット内に含まれる MAC アドレスをハッシュ関数で匿名化して個人の特特定が不可能な状態で記録する機器である。記録するデータは、携帯端末ごとの匿名化された ID (匿名 ID) と携帯端末から発信された Wi-Fi

管理パケットを受信した時刻であり、携帯端末を持った人がWi-Fiパケットセンサーの近くに滞在した場合、Wi-Fiパケットセンサー設置箇所の付近での滞留時間を把握することが可能となる。また、匿名IDは共通のため、Wi-Fiパケットセンサー設置箇所の位置情報と関連づけることにより、携帯端末機器の動きを追跡することが可能となる。そのため、Wi-Fiパケットセンサーを不動橋駐車場や下町地区、上町地区の特定の場所に設置することで、人の滞留・流動を把握することが可能となる。

不動橋駐車場の利用者について、駐車場到着後の市街地部での訪問先の割合をみると、実験期間外より下町地区を訪れる観光客の割合が増加している。また、下町地区内の訪問先の構成比をみても、社会実験地区を訪問する観光客の割合が増加していることがうかがえる。

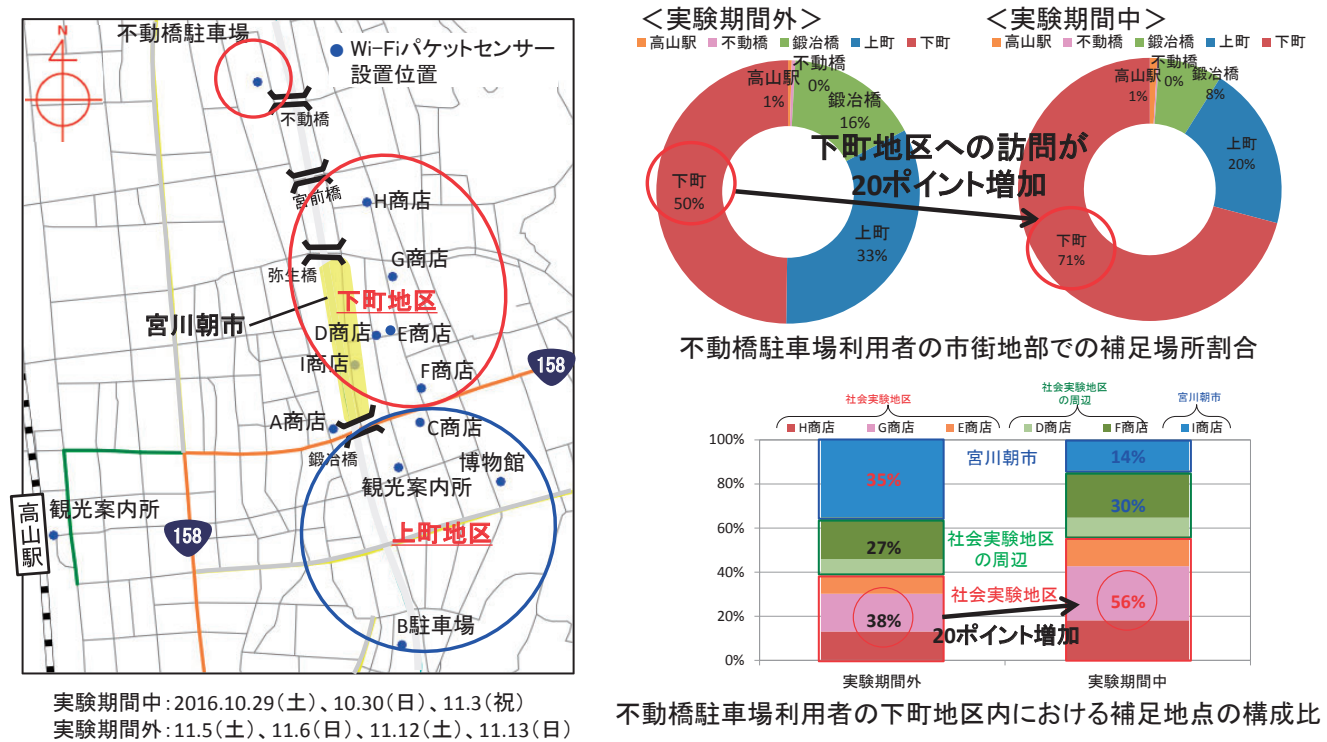


図-7 Wi-Fiパケットセンサーの設置場所と不動橋駐車場利用者の捕捉場所割合と下町地区内における捕捉地点の構成比

また、上町地区と下町地区の流動は、実験期間外と比較して、実験期間中は上町から下町への流動が2ポイント増加したが、下町から上町への流動は減少しており、両地区の両方向への回遊を促進する点では課題が残る結果となった。

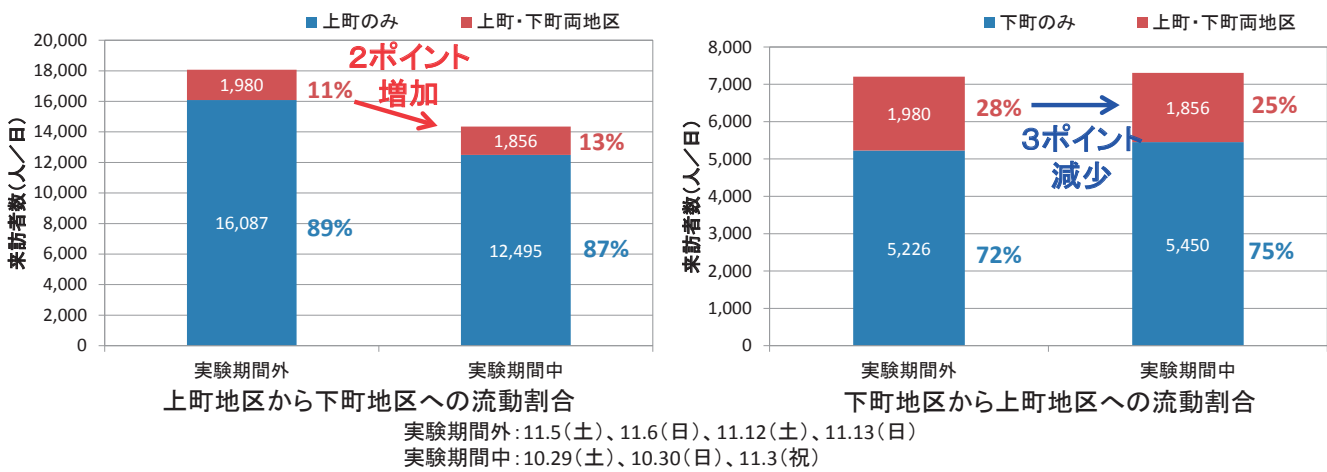


図-8 上町地区と下町地区の流動割合

不動橋駐車場利用者について、駐車場を出発した後に訪れた1箇所目の場所と2箇所目の場所の割合を集計したところ、不動橋駐車場利用者が駐車場出発後に社会実験地区で捕捉されることが実験期間外より多くなり、実験期間中は下町地区を経由する経路に変化したことが確認された。

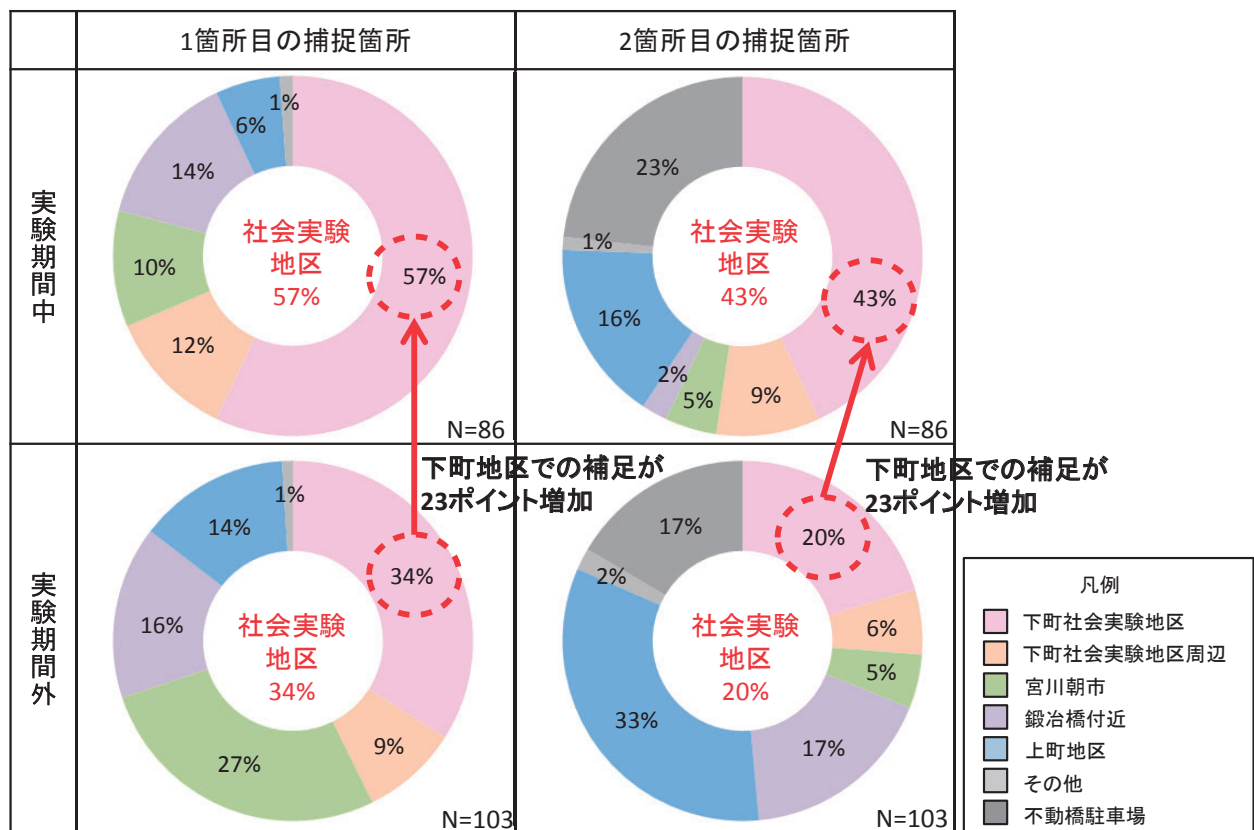
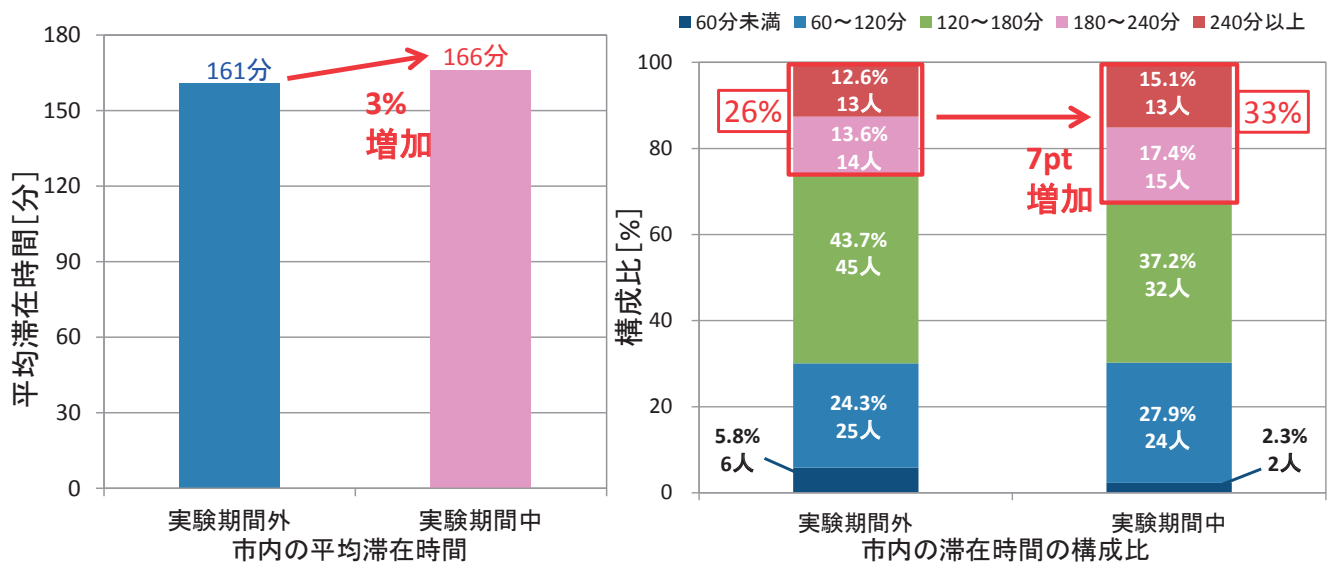


図-9 不動橋駐車場利用者の到着後1箇所目・2箇所目の捕捉箇所割合

不動橋駐車場利用者の市内滞在時間をみると、平均滞在時間が3%増加し、166分となった。さらに、3時間以上滞在する観光客の割合が26%から33%へと7ポイント増加し、社会実験の効果が確認された。



実験期間中: 2016.10.29(土)、10.30(日)、11.3(祝) 実験期間外: 11.5(土)、11.6(日)、11.12(土)、11.13(日)
 ※滞在時間: 最初に不動橋で捕捉された時間から、最後に不動橋で捕捉された時間までを滞在時間と定義

図-10 不動橋駐車場利用者の市内平均滞在時間と市内滞在時間の構成比

(3) 外縁部駐車場や二次交通の利用促進による交通分散

不動橋駐車場の利用特典である 300 円分の駐車券を配布したところ、稼働率は実験期間外より向上した。一方で、「まちなみバス」の利用は、1 日の無料乗車券 120 枚の配布に対して、利用枚数は 1 日最大 20 枚（2 割）だった。利用者数が少なかった理由として「バス停の位置がわからなかった」などの意見があり、この結果をもとに今後は、観光滞在時間の増加と二次交通の利用促進を目的に外縁部駐車場からの観光ルート案内や「まちなみバス」利用観光客を対象としたパンフレットの作成、バス停の標示方法などを検討する。

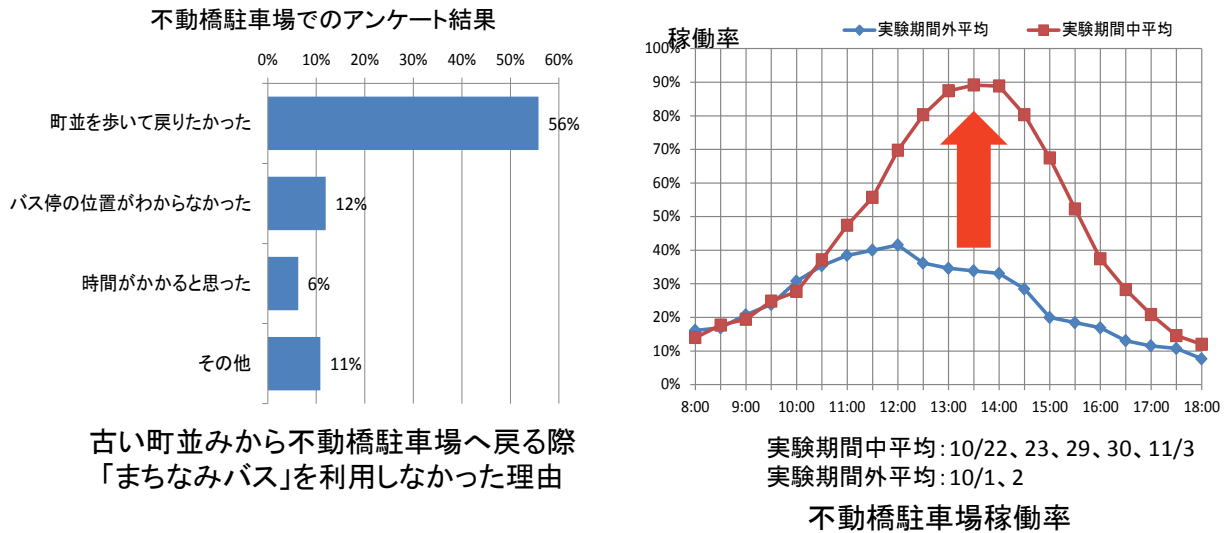


図-11 不動橋駐車場の「まちなみバス」に関するアンケート結果と不動橋駐車場の稼働率

4. 今後の課題

今回の社会実験により下表のとおり課題が見えてきた。今回の社会実験では下町地区の歩行者と不動橋駐車場の利用台数が増加した。今後は取組みを継続的に実施する仕組み作りや上町地区との連携が課題となる。仕組みづくりのためには、地元住民に対するワークショップの実施、情報提供の充実、上町地区との連携にはスタンプラリー等の上町地区、下町地区の両地区にメリットがある施策や観光客の二次交通利用の促進を検討する。

表-3 今後の課題

分類	課題	施策案
道路の景観維持に向けた地域の参加意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 「古い町並み」の景観維持に対する住民の主体性の育成 「下町地区」の景観のあり方に関する意識の共有 	○地元住民に対するワークショップの実施
維持管理費用の確保	<ul style="list-style-type: none"> 下町地区への来訪者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○下町地区に関連する情報提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・散策コース、案内マップ、見どころ等の情報 ・外国人観光客に対応した情報提供 ○休憩所やトイレの整備 ○観光ツアー等の大口観光客へのアピール ※人の流れを下町に向ける取組みを社会実験として継続的に実施（案内、イベント等）
	<ul style="list-style-type: none"> 地元店舗等からの協力金 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元住民に対するワークショップの実施 ○不動橋駐車場からの協力金の確保（還元）

分類	課題	施策案
市街地全体のまちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> • 上町地区を含めた周遊行動の促進 • 渋滞・駐車場問題等の交通課題の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>上町地区と連携した施策実施(例:スタンプラリー等)</u> ○ 市街地全体の包括的な対策の推進 • 市内駐車場の適正利用 • 市内二次交通(まちなみバス等)の利用促進 • マイカー規制(郊外P&R駐車場整備等)

5. 今回の社会実験を終えて

今回の社会実験により、自宅前の道路は自分で掃除するなど既に地域で実施している道路美化活動や冬の除雪作業などの地域でできる道路維持活動、速度抑制のために設置したプランターは地域全体が明るくすることなど、実験しなければ分からないことが数多くあった。社会実験を行う際には実行委員会のメンバーである町内会や祭屋台を取り仕切る「屋台組」の存在が大きく、地域のまとまりが大きな力となることが分かった。こういった継続できる活動が道路行政のみではなく、飛騨高山の観光行政にも好影響、好循環を導くものであると思う。

最後に今回の社会実験に協力、支援していただいた国土交通省中部地方整備局には感謝申し上げ社会実験の報告とさせていただきます。